

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
469	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Sex differences in risk factors for aneurismal subarachnoid hemorrhage A cohort study. 動脈瘤性くも膜下出血の危険因子における性差 コホート研究	
<b>執筆者</b>	
Lindekleiv H, Sandvei MS, Njølstad I, Løchen ML, Romundstad PR, Vatten L, Ingebrigtsen T, Vik A, Mathiesen EB.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Neurology. 2011 Feb 15;76(7):637-43.	
<b>キーワード</b>	
くも膜下出血、危険因子、精査	
<b>要旨</b>	
<b>目的：</b> この研究の目的は、大きな集団に基づくコホート研究での動脈瘤性くも膜下出血の確立した主要なリスクファクターの性差を調査することである。	
<b>方法：</b> 動脈瘤性くも膜下出血の確立したリスクファクター（喫煙、高血圧、アルコール消費）における性差を、ノルウェーの Nord-Trøndelag & Tromsø Health Study の 92,462 人の対象集団の前向きコホートを用いて調査した。	
<b>結果：</b> 1,002,148 観察人年の間にくも膜下出血 120 例を同定した。非喫煙者のリスクと比較して、男性の喫煙者よりも女性の喫煙者において、くも膜下出血のリスクが高かった（年齢とアルコール消費について調整後の女性のハザード比=8.9、95%信頼区間 4.7~17.0 対男性のハザード比=2.8、95%信頼区間 1.3~6.1）。性別と喫煙との相互作用は、付加的なスケールでも存在しており（相互作用による相対過剰リスク 3.1、95%信頼区間 0.5~5.8）、このことはくも膜下出血のリスク上昇は男性より女性の喫煙と関連していることを示唆していた。一方、くも膜下出血のリスクの性差は、高血圧やアルコール消費では観察されなかった。	
<b>結論：</b> 前向き集団コホート研究から、くも膜下出血のリスクは非喫煙者と比較して男性よりも女性の喫煙者でより高いということが示された。この結果は、くも膜下出血の発症における性差を少なくとも一部は説明できると思われる。くも膜下出血のリスクの観点からは、女性においてより強力な禁煙指導の介入が考慮されるべきである。	